

2012年無線設備更新記 DEJA1W0B 齊藤

再開局した年の1990年に購入した、IC-726Sが数年前から調子が悪くバンドに依っては、受信感度が極端に悪かったり、送信出来ない故障が出始めました。

50mhzのバンドはなんとか、送受信は出来ていましたので、修理もせずに、2年～3年経過していました。今年のニューイヤーパーティーが終わったころから、ついに50Mhzの送信も不調となりました。



写真は固定のIC-726Sです。右の表示ランプも切れてしましい無残な姿となりました。

Netで故障状況を検索して見るとVCOのTRやコンデンサーの劣化に依りVCOの停止による故障のようでした。

目視でTRやコンデンサーの破損状況が分かる程度であれば、不良の交換も出来ますが、故障箇所を特定するには、SGやシンクロなどの測定器が必要であり、残念ながら自分修理する事は、あきらめました。

ICOMのサイトで修理可能機器を調べてみたら、修理可能リストから、IC-726Sは有りませんでした。

2年も前の機械なので、しかたないかと思い、新しいリグを探し始めました。当局で一番新しいリグは、5年位前に購入したFT-817で移動運用やモバイル運用に使用しています。

50MhzはリニアアンプのHL66Vを付加していますので、モバイル運用や車からの移動運用でもパワー不足を感じる事はありません。

但し、HFでの移動運用はフルサイズのダイポールを張って運用しますが、7MhzのQRMの中でQSOするのは、至難の技でいつもパイルの最後か、CQの一発目のコールで取って貰える状況です。

比較的、局数の少ない 18Mhz ではQ R P 5 Wでもなんとかかかりますが、やはりパイルになった場合は、じっと我慢で、パワー不足を感じます。

当局のアマチュア無線運用は、基本的に移動運用が中心になるので、移動運用がし易く、且つ固定でもそこそこ使えるリグを選ぶ事にしました。候補としては、I C-7 0 0 0、F T-8 9 7、F T-8 5 7を検討する事にしました。

また、N e tで使用状況レポート調査を行うと、I C-7 0 0 0とF T-8 5 7が移動用としては、人気があるようでした。

I C-7 0 0 0は、I FのD S P付で、操作性もF T-8 5 7と比べると直接鉤操作が多い分、価格がやや高いといったレポートでした。

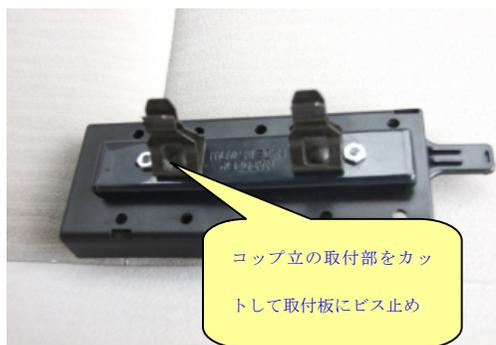
F T-8 5 7は定格の 13.8V 以下の 11V 位まで正常に動作する様ですし、F T-8 5 7 Dになってからは、A FのD S Pですが標準装備になっていました。

ハムショップ通販の山形の東名××、東京の富士××、岐阜のC Q××に、I C-7 0 0 0、F T-8 9 7、F T-8 5 7の見積もりを出してみました。予想通り、F T-8 5 7が3店とも一番安価であり、その中でも東名××が一番安価で、予算内に入っていましたので、車載のセパレートキットも併せて早速注文しました。 数日後にF T-8 5 7 Dが届きました。

電源とA N Tを繋いで、取り説をみながらあれこれ試してみました。

F T-8 1 7とほぼ同じ操作方法なので、違和感無く操作方法出来ました、むしろF T-8 1 7より使い勝手は良いようでした。

また、本体とパネルがセパレート出来るので、セパレートキットのパネル取付板と市販のコップ立てを加工してパネルはエアコンの噴出し口に取り付けました。



次に、NETで無線局の設備追加申請をして、3週間位で審査終了になりました。
7/28に飯能市にある有間峠に移動運用に行きました。
5月6月の大雨で通行不能の情報もありましたが、問題なく有間峠まで上る事が出来ました。
何時もの様に50MでQRVしてると、途中で雷が鳴り始めたので、早々にアンテナを撤収して車に乗り込むと、激しい雨が振って来ました。(31局)

8/12、車に7MHzと21MHzのモ-ビルホイップ取り付けて自宅の駐車場から50W運用してみました。
FT-817より応答率は良く、パイルでも2~3回で応答があり、2、3、5エリアと59でコンタクトが出来ました。
7MHzのコンディションが悪いとはいえ、昼間は日本全国や中国/韓国の多くの局がQRVしていました。
また、21MHzではフィリピン在住の日本人の局と、モ-ビルホイップ50Wで59/59でコンタクト出来ました。

8/19は六道山の小沢ポイントにHFの7/21のANTが設置されたのでお試し運用をしてみました。
7MHzでの呼び出し応答率は良く、1~2回で直ぐに応答がありましたのでCQを出してみました、暫くはポツポツとのコールでしたが、次第に多くなり多いときには、4~5局からのパイルアップとなりました。
やはり、ワイヤーANTとは云え、1/2λのフルサイズダイポールは威力があります。(7M=21局、21M=1局、50M=2局、144M=1局 430M=6局)
六道山からの移動運用は、HFも含めて運用を楽しみたいと思います。

終わり